

超自然がなければ自然は理解できない

平和統一 NEWS No. 80 (2015/4月号)

渡辺 久義

NHK テレビの「ダーウィンが来た」で、進化という言葉が最近ほとんど使わなくなって、進歩したなと思っていたら、別の番組で、何十年も続いた、旧来の生物教科書にある通りのダーウィン進化論の説明をしていた。しっかり最後までは見なかったので、結論でどう言ったかは知らないが、おそらく逆らえない筋から「もっとしっかりダーウィンをやれ」というお達しがあったのだと推察される。どこまでもダーウィンを貫き通せというのは明らかに愚民政策で、故意に科学の足を引っ張るもの、思考停止を強いるものである。これは唯物論という前提しかないとすればこれしかない、という考え方にすぎない。あるノーベル賞学者が、ダーウィンをどう思うかと訊ねられ「ダーウィン？ それは党の路線 (party line) だよ」と答えた。党の方針を、科学だとか真理だとかいう者はいない。何によらず、体制派とは党だと考えて差し支えない。除名されたくなければ党規約を守らなければならない。

仮に私と私の同志の小さなグループが、人類の徹底的な隷属化を狙う、秘密のエリート集団だったと仮定しよう。我々は、民衆の知らない、より高い次元の世界があることを知っている。この知識を秘密にして世界を支配したければ、我々は民衆という奴隷どもに、ダーウィン進化論を絶対的真理として教え込み、彼らが高い現実に目覚めないように牢獄に閉じ込めておくだらう。牢獄とは唯物論世界のことである。“プラトンの洞窟”といってもよい。こうして我々は支配階級としての地位を固める。しかもこの理論は、人間と下等動物との本質的な差を認めないから、我々支配者が“徒食者”とみなす者を抹殺して、世界人口を適正規模——例えば5億とか——にまで減らしても、犯罪にはならないはずだ。ヒトラーも、ダーウィン理論から出てくる優生学を根拠に世界改良を目論んだのだから、犯罪ではない。

もし知識人の中に、世界の高次元レベルの存在を確信していて、「超自然」というような言葉を使ったとしたら、我々支配者はこれを笑いものにするように仕向ける。「超自然」がなければ「自然」は理解できないことを我々は知っている。しかし奴隷どもにこれを知られては困るから、「超自然的」*supernatural* とは、知能の低い、科学を知らない者の言うことだと教える。これによって、この語はもっぱら「怪しげな」という意味に使われ、これを口にする者は徹底的に馬鹿にされる。この風潮は、実は我々が作ったものだ。それでもなお、我々にとって危険な学者がいれば、我々には暗殺という得意技がある。我々は隠れた存在だから、我々に都合のいい研究には法外なカネを与え、不都合な研究をする者や、データ改ざんに応

じない学者は、暗殺することが多い、ということさえあまり知られていない。

我々にとって最も恐ろしいのは、我々と同じく高次元世界の存在を知っているが、我々とは対立し、我々の秘密を徹底的に知っている者たちの存在である。彼らが民衆に、我々の秘密の計画を教えようとして、**illuminati-controlled main-stream sciences**（イルミナティに支配された主流科学）というフレーズを使ったことがある。我々が最もドキリとするのはこういうときである。我々は主流科学だけでなく、主流メディアも同時にコントロールしている。ダーウィンの『種の起源』出版 150 年記念の 2009 年に、読売新聞などが 2 ページ抜きの大げさな扱いをしたのは、我々の差し金だと考えてよい。新聞がそんなことを自発的にやりはしない。ダーウィンの耐用年数が過ぎたことは誰でも知っている。我々にとって深刻だったのは、**ID**（インテリジェント・デザイン）理論の台頭であり、敗退していく古い理論に、梃入れをする必要があったのだ。その頃はまだ多少の勢いがあった、京大や阪大のようなところの研究者が、ダーウィンを証明するかのような発表をすると、我々は飛びついて、新聞と NHK テレビに大げさに報道させた。しかし今はもう、そんな研究者もおらず、そんな手は使えなくなった。

我々は悪人集団だが、馬鹿ではないのだから、利用される学者どもと違って、**ID** の価値はよく理解できる。ダーウィン進化論に証拠はないが、**ID** は証拠によって固められた理論である。証拠には大きく分けて 3 本の柱がある――

1) 従来通りの化石記録――徐々に変化した中間種というものは存在しない。「カンブリア爆発」において突然出現した多様な動物は、ダーウィンが最後に現れるとした、最も基本的に体構造の違う 30 種あまりの「門」である。

2) 還元不能の複雑性 (**Irreducible Complexity**) ——生命体の基本的なあり方。すべての機能する機械は、各部品が、一定の目的のもとに一気に組み合わされるのであって、一つずつ偶然に結合されてできることはない。

3) 宇宙的微調整 (**Cosmic Fine-Tuning**) ——宇宙の基本的な物理常数のすべてが、最初から、人間や地球を生み出すように微調整されていた。そのうちのどれか 1 つをわずかに変えただけでも、このような生命環境は生じない。